

# 総合コミュニケーション科学

Project Based Learning (PBL)

後半

M8

村松先生と前半後半を入れ替え

2015年

**OptLab.**  
社会を最適化する

高橋 里司

- 氏名：高橋里司（男・29歳）
- メール：[stakahashi@uec.ac.jp](mailto:stakahashi@uec.ac.jp)
- URL：<http://optlab.org/lecture/comsci/>
- 所属：情報・通信工学科 情報数理工学コース
- 居室：西4号館508号室
- 専門：数理最適化、組合せ最適化、オークション理論、オペレーションズ・リサーチ

## オークションの数理

多数のオークション参加者



理論と応用の最前線

- コミュニケーションの第一歩
- 1人ずつ自己紹介をしてください。
- 項目(これ以外でも大丈夫です)
  - 名前
  - 所属
  - 興味を持っていること

- これから4週にわたっておこなうこと
  - プロジェクトベースラーニング
    - あるテーマについてグループで討論しながら解決法を提案する学習方法
    - 政策提言や方策の立案なども行う
- これからグループ分けをします

- グループ 1 (4)
  - 住元、高尾、武田、上甲
- グループ 2 (3)
- 池田、鈴木、田口

- **ディベート**
- あるテーマについて異なる立場に別れて議論すること
- 競技ディベート
- 一般にあるテーマについて「肯定側」、「否定側」にわかれて主張を通すための証拠、根拠を集めて、審査員に主張を認めてもらう

- ディベートとは、論理的な説明を通して聞き手を納得させることを目的にしている
- 論理的な思考、話術を身につける
- 論理的な文章、プレゼンの組み立て方を身につける
- 相手を説得させる話し方を身につける

- 競技ディベートの流れ

1. テーマ発表

2. テーマの調査、検討

1. ディベートを行うグループは肯定・否定の両方の立場から論題に取り組む

3. 肯定側、否定側が決まったら

1. 作戦会議のために2分間の時間が与えられる

4. ディベート開始

1. 肯定側立論
2. 否定側尋問
3. 否定側立論
4. 肯定側尋問
5. 否定側反駁（はんばく）、肯定側反駁
6. 肯定側最終弁論、否定側最終弁論

- ディベートはけんかではない
- ディベートでは議論の一貫性が評価される
- ディベートはあくまでも論点について主張し合うので、論点以外の部分について述べてはいけない
- 否定側、肯定側どちらが正しいかを採点の基準にしてはいけない

- ディベートのテーマを決定します
- テーマ案
  - カジノを日本に作るべきか？

- 1月16日（第2回）
  - ディベートの流れ、例の説明、調査方法、テーマについての議論、調査
- 1月23日（第3回）
  - ディベートで用いるテクニックの説明、テーマについての議論、調査
- 1月30日（第4回）
  - ディベート大会、審査+評価
- 調査に必要なPC等はこちらで用意します。（印刷もできます）